

舌診入門 ⑤

舌質の色調と薬方

三谷 和男 京都府立医科大学東洋医学講座

正常の舌質は淡紅色ですが、貧血症・進行した慢性腎疾患・栄養失調・吸収不良症候群・甲状腺機能低下などでは淡白紅色を呈します（写真1～4）。主として赤血球の減少・蛋白質代謝障害・組織間の浮腫によって生じます。漢方的には「気血の不足」として、血虚に対しては四物湯、気虚に対しては四君子湯や補中益気湯を与えます。淡白紅色を呈する舌の場合、舌質はやや腫大し、湿潤していることが多いのですが、もし乾燥傾向ならば、六味丸・生脈散・炙甘草湯などを考えます。

熱性疾患に罹患したとき、軽症では舌質の変化がほとんどありませんが、ある程度進行すると次第に紅色を呈するようになります（写真5～7）。さらに進行すると深紅色を呈します（写真8～11）。こうした色調は、舌粘膜固有層にある毛細血管の拡張・充血によるわけで、感染症による発熱・がんの末期・甲状腺機能亢進・代償期における高血圧症・肺うっ血などの疾病にみられます。漢方的には熱症として薬方を考えますが、苔の分厚い「実熱」と苔の少ない「虚熱」に分ける必要があります。前者では、口渴を訴えることが多く、清熱瀉火または清熱涼血として、三黄瀉心湯・白虎湯・茵陳蒿湯などを与えますが、後者は口渴を訴えることが少なく、たとえ水分を欲しても温湯を好みます。こうした場合には「養陰」を主とした治療を考えるわけで、人参湯・炙甘草湯・麦門冬湯を与えます。また真武湯・附子湯など附子剤も必要になることもあります。

カゼ症候群においては、舌所見にほとんど変化はありませんが、舌質が比較的紅である場合、とくに舌尖部が紅であれば（写真12）、柴胡・薄荷・牛蒡子・豆

豉・升麻・葛根・桑葉・菊花などを用い、薬方としては、桑菊飲・葛根湯・柴胡湯を与えます。これに対し、舌質の変化がほとんどなければ（写真13）、麻黄・桂枝・羌活・細辛・生姜・紫蘇葉・荆芥・防風などを用い、薬方として、桂枝湯・麻黄湯があります。前者は脈が浮緩、自汗があり、後者は脈が浮緊、無汗です。

慢性疾患では、舌色が紫紅色を呈することをよく観察します（写真14～15）。こうした色調はうっ血によるもので、門脈および上大静脈のうっ血と関連があります。疾病としては、右室不全をはじめ肝硬変症・悪性腫瘍・胆嚢系の疾患・婦人科疾患・アルコールの多飲などにみられます。このときには舌下面にある舌静脈の怒張が同時にみられることが多いです（写真16）。漢方的には気血の運行が悪くなった「瘀血」と考えますが、虚実・陰陽の区別がポイントになります。薬方としては柴胡剤を中心に、駆瘀血剤として、桃核承気湯・桂枝茯苓丸・四物湯・当帰芍薬散などを兼用方とします。加味逍遙散や補中益気湯もよいでしょう。また「気滞」に対しては、理気剤として香附子・木香・橘皮・青皮・砂仁・厚朴・枳実・沈香などを用いる必要があります。

気管支喘息や肺気腫のように、酸素欠乏の結果、血中に還元ヘモグロビンの増量した場合には、舌色は青紫色を呈します（写真17～18）。非代償期の肝硬変症においても、こうした色調をみます。漢方的には重篤な症候として「厥陰病位」の薬方を与えます。つまり四逆湯や通脈四逆湯・四逆加入参湯ですが、「寒邪温散」として附子・桂枝・生姜・乾姜・呉茱萸・藿香・丁香などの生薬が必要です。

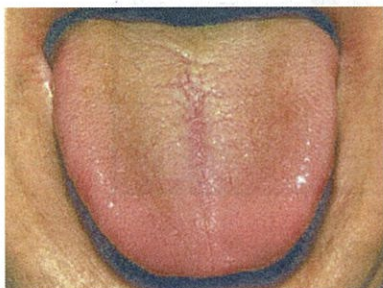


写真1 淡白紅色



写真6 紅色

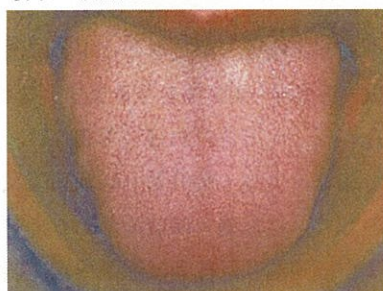


写真2 淡白紅色 (氣血の不足)

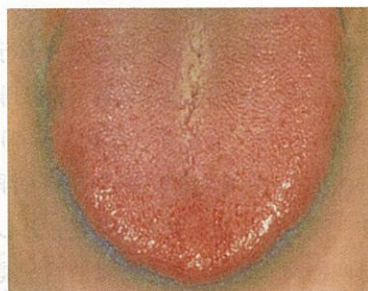


写真7 紅色

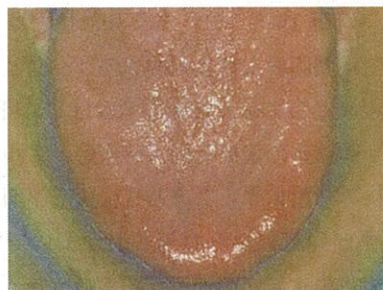


写真3 淡白紅色 (湿润)



写真8 深紅色



写真4 淡白紅色 (乾燥)

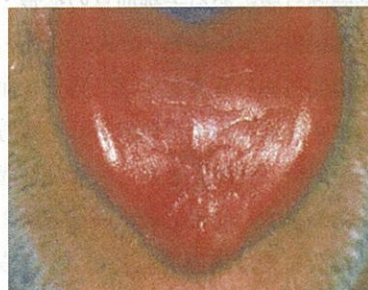


写真9 深紅色



写真5 紅色



写真10 深紅色 (実熟)



写真11 深紅色 (虚熱)



写真15 紫紅色



写真12 舌尖潮紅

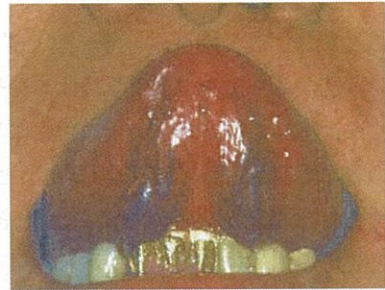


写真16 舌静脈の怒張

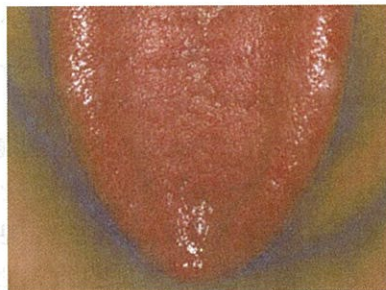


写真13 感冒時, 特に変化なし

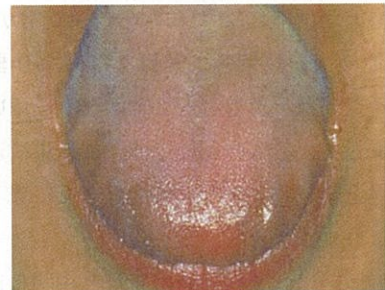


写真17 青紫色



写真14 紫紅色

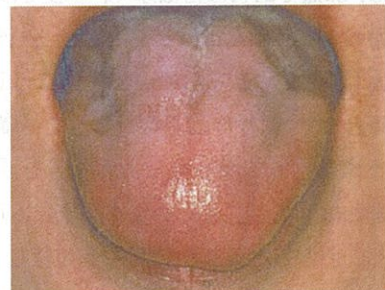


写真18 青紫色